

沖縄事業再生研究会の年次報告

(沖縄企業の活性化とチャレンジ)

平成 21 年 12 月
沖縄事業再生研究会

昨年(平成20年)の12月、日本銀行那覇支店長 水口毅氏(当会顧問)の「最近の金融経済情勢について」の勉強会から早や1年が経った。

平成 21 年の沖縄事業再生研究会の勉強会は、いつものよう沖縄開発金融公庫の大会議室において、1月26日(月)シブサワ・アンド・カンパニー代表取締役 渋谷健氏の「これからの資本主義の潮流 生活者の参加型長期投資の提案」(第30回勉強会)に始まり、その間、第7回シンポジウム「地域経済におけるファミリービジネスの役割」を行い、12月4日(金)武藤眞美氏、ビューローベリタスジャパン・システム認証事業本部営業部エリアマネージャーの「国際認証の現状と今後」(第34回勉強会)で締めくくることがとなった。

この1年も、沖縄公庫の大会議室を無料で使っていただいていた皆様のご支援と講師の諸先生のボランティア精神と適時性のあるテーマで、沖縄事業再生研究会の勉強会やシンポジウムを実施することが出来た。

尚、平成 21 年 3 月 31 日現在の会員数は 91 名(賛助会員 10 社、理事会員 24 名、一般会員 57 名)である。

【 勉強会の様子(H21/6/1、8/20) 】



第30回勉強会（平成21年1月6日）

「これからの資本主義の潮流」

講師：シブサワ・アンド・カンパニー株式会社 代表取締役社長 渋澤健氏

生活者参加型長期投資の提案 という副題の下で、今回の世界金融危機の原因はグローバル市場型資本主義と国家資本主義によるレバレッジ資本主義にあったが、これらの終焉の後、これからの資本主義はナレッジ資本主義の時代である。

それは、渋澤健先生の祖渋澤栄一翁の道德経済合一説、「投機ノ業又ハ道德上賤ムヘキ務ニ従事スヘカラス」（渋澤家家訓）や渋澤栄一翁が設立した明治の第一国立銀行株主募集布告「銀行は大きな河のようなものだ。銀行に集まってこない金は、溝に溜まっている水やポタポタ垂れている滴と変わりない。。折角人を利し国を富ませる能力があっても、その効果はあらわれない。」に見られるように、事業経営に対する心構えコーポレートガバナンス本質の理解の問題である。

21世紀を一言で表わすキーワードは多様性であり、「OR」ではなく「AND」の価値観が重要になってくる時代である。一方、日本は同質社会であり、多様性が乏しいと言われているが、果たしてそうなのか？日本人は、漢字、ひらがな、カタカナ、ローマ字で表現できる民族であり、その発想の延長にインド料理から「カレーうどん」があり、ポルトガル料理の「天ぷらそば」があるなど、食文化から見てもまさに「OR」ではなくて「AND」の民族である。21世紀の日本社会の発展のために「AND」の視点を育成したい。

渋澤先生の独特のお考えの中での企業経営のあるべき姿と次世代投資ともいうべき「30年投資 生活者の視点」についてお話を伺った。

第7回「シンポジウム」(平成21年3月6日)

地域経済におけるファミリービジネスの役割

主催：沖縄事業再生研究会、ファミリービジネス研究所

1. 開会のご挨拶 沖縄事業再生研究会・・・ 代表理事 与世田 兼稔 氏
ファミリービジネス研究所沖縄本部長 リウボウグループ 会長 比嘉 正輝 氏
2. 基調講演「いま何故ファミリービジネスなのか？」
講師：ファミリービジネス研究所理事・事務局長
PwCアドバイザリー(株) パートナー・・・ 大澤 真 氏
3. パネルディスカッション「地域経済とファミリービジネス」
コーディネータ：・・・ 大澤 真 氏
パネラー：
ファミリービジネス研究所会員 株式会社ジーマ 代表取締役 儀間 慶太 氏
" 金秀グループ 会長 呉屋 守将 氏
" 株式会社カヌチャベリソート 代表取締役社長 白石 武博 氏
" 公認会計士 山内 眞樹 氏

何故、沖縄なのか、Because...



おきなわF B 短信 (16) (1分間で読めます。)

平成 21 年 3 月 9 日 (月)

先週の金曜日に沖縄公庫の5階の大会議室で行われたファミリービジネスシンポジウムはなかなか聞き応えのあるものであった。

リウボウグループ比嘉正輝会長のファミリービジネスの重要性の挨拶に続き、沖縄を代表する若手経営者の現状認識と将来への展望が語られた。

3人の中で最も若いジーマ株式会社社長の儀間慶太氏の経営観は、問屋という地域密着型の本業のせいもあって、最も堅実な印象を受けた。

まず、沖縄から外へ出ない。本部を沖縄に置いて儲けは全て沖縄へ再投資すると言いきった。儀間氏は創業76年の三代目であり、先代は社会福祉事業に多大の貢献がある。

社は、商業を通じて地域社会に貢献する。お役に立ちます明日の貴方に!!であった。

金秀グループの呉屋守将会長は、創業者が徒手空拳で起業し、成功を収めたが、時には髪が白くなるほどの苦境を見たこと。成功と失敗を重ね、企業グループを形成したことから学んで、自分の代もベンチャー精神を忘れずに企業を改革し、不動の企業を確立するとともに、創業者同様、沖縄に恩返しをすることが目的と断言した。金秀グループの社訓は誠実、努力、奉仕である。

株式会社カヌチャベイリゾートの白石武博社長は、三代目である。沖縄の観光について、少年時代に、先代の薫陶を受け、沖縄観光を自分の事業としてとらえる。

沖縄観光は、一時的なものではなく長期的な循環で考える。例えば、修学旅行生が成人してリゾートウエディングを沖縄で行う。生まれた子供と一緒にまた思い出の沖縄を旅行する。その子供たちがまた沖縄を訪れる。

沖縄という地と海は日本だけでなく、中国やアジアや欧米の観光中心である。

日本の人口1億2千万人で500万人の来訪がある沖縄に、将来、アジアや世界の人口から1,000万人の観光客はむしろ少なすぎる。

白石グループの社は、進取の精神、人材育成と活用、顧客第一主義、健全経営であった。

三人三様の中で、そろって結論は沖縄であった。

家を建てる時には、堅固な土台と良質な材料と誠実な仕事を要する。沖縄を将来に向かって構築する時、若手企業家の明確なBecause...は心強い。

沖縄のファミリービジネス(沖縄の 100 年企業)

No.	名称	創業年	西暦	年数
1	(名)新里酒造	弘化3年	1846	163
2	瑞穂酒造(株)	嘉永元年	1848	161
3	北谷長老酒造	嘉永元年	1848	161
4	(有)玉那覇味噌醤油	不明	-	146
5	照屋漆器店	明治元年	1868	141
6	山城まんじゅう	不明	-	130~140
7	神村酒造	明治15年	1882	127
8	(株)比嘉酒造	明治16年9月	1883	126
9	(資)新元	明治17年6月	1884	125
10	瑞泉酒造(株)	明治20年5月	1887	122
11	琉球新報社	明治26年	1893	116
12	(有)久場商店	明治30年	1897	112
13	咲元酒造(資)	明治35年	1902	107
14	崎山酒造廠	明治38年	1905	104
15	きしもと食堂	明治38年	1905	104
16	(有)新垣ちんすこう本舗	明治41年	1908	101
17	儀保まんじゅう	不明	-	100
18	(宗)大典寺	明治43年	1910	99
19	(有)錦屋旗店	明治44年9月	1911	98
計 19 社 (各社ホームページ等から引用)				2348
平均				124

コラム 沖縄の最長寿企業 - 新里酒造 - 訪問

沖縄の最長寿企業を探していた時、東京商工リサーチの大城支店長から、それは「新里酒造」さんですよと言われた。各社のホームページも調べた結果、その通りであった。新里酒造の創業は、弘化3年(1846年)、琉球政府より泡盛職人に選ばれた新里蒲に始まる。それは、ペリー来航前の日本の幕末である。

6代目の新里修一社長に面会してお話をうかがった。泡盛は琉球政府が中国や日本の献上品として首里の三箇(崎山、赤田、鳥堀)の30人のみに製造を許していたもので、当時の首里の風景画を見ながら、沖縄最古の蔵元の戦前、戦後、復帰前、復帰後、現在の話をつかがい、社長の案内で、工場の見学、試飲もさせていただいた。

平成16年には、現在地(うるま市 州崎)に新工場を建設し、今年には新工場初めての古酒の出荷をしますとのこと。いただいた資料から、当社は泡盛鑑評県知事賞を始めこれまで30余の賞を受け、年商は毎年更新しているようで、社長が開発された「泡なし酵母」は泡盛製造技術の革新と言われている。

社是は「和醸良酒」、和をもって良い酒を醸す、それは人の和、チームワークがあって初めて納得のいく泡盛づくりが可能ということで、清潔で気持の良い従業員の対応など最新設備の工場とマッチした雰囲気を感じた。その伝統とともに技術の向上や企業の成長を続け、「お客様第一主義で、社員の幸福と社業発展」という社長の言葉は、ファミリービジネスの良さと強さを現す長寿企業の要諦であるという感じがした。

第 31 回勉強会 (平成 21 年 6 月 1 日)

世界経済危機の状況 市場主義の見直しと F B フォーカスの意味

講師：小西 龍治 先生

立命館アジア太平洋大学大学院経営管理研究科客員教授、ファミリービジネス学会
常任理事、ファミリービジネス研究所代表理事

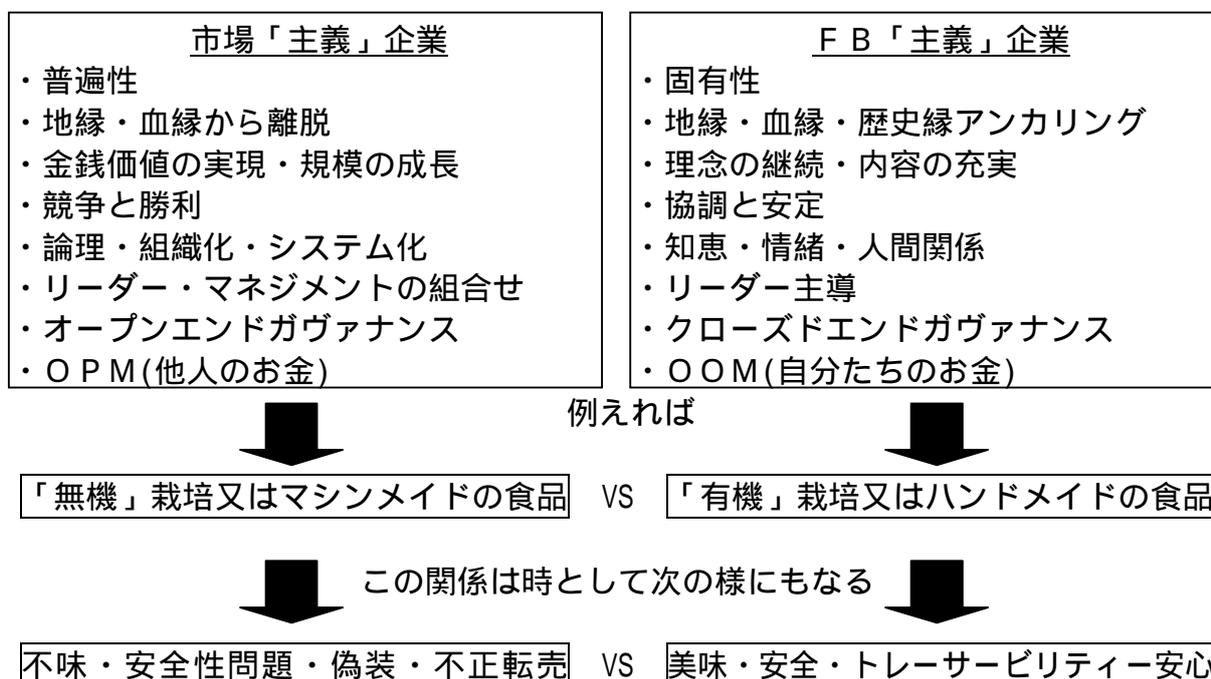
講義の内容は大きく三つであった。

先ず、今回の世界同時不況の原因、その基底にあるものは、(1) 一体化・同質化・同期化である。すなわち、ソ連が崩壊してアメリカ的市場が、ヨーロッパも含めて世界に急速に浸透する世界一体化の輪の中で、他方では BRICs などの新興国が台頭し、参入した。そのような流れを促進したのは、ITC による情報と金の時空を超えたハイパーモビリティである。それは生産・在庫・販売のサイクルの著しい短縮をもたらしたが、今回の世界一斉不況の原因の一つでもあった。(2) 三つの歪み、それは、国際経済における先進国の花見酒経済と貧富格差の拡大である。また、市場経済の歪み、グローバル市場における経営論理の蹉跎と金融と実物経済のアンバランスであり高収益と高株価、借金活用と短期利益追求であり、危うい金融技術と証券化である。そして、市場と公機能の歪み、即ち政府・国際機関の役割不足、BIS 規制の誤り、時価会計の不備などであった。

次に、世界同時不況を受けて日本は如何にすべきか、それは自らの姿を正しく見つめ直す機会である。ステレオタイプの経済構造からの脱却であり、従来の考え方の変革(強い円による内需拡大、お金は使うために貯めるもの、中央集権から地方分権、国家の内的充実等)と視点の変更である。具体的には統治と税のシステムの改革、教育システム改革、新たな産業と競争力の形成である。

最後に、今なぜファミリービジネスか。非市場的要素を多く持つファミリービジネスの再発見を行うべきであり、ファミリービジネス大国である日本は従来の中小企業的思考を修正して対処する必要がある。

市場「主義」企業と F B 「主義」企業 異なる様相・異なるモメンタム



第 32 回勉強会（平成 21 年 8 月 20 日）

動産担保融資の仕組みと実現について

講 師： 久保田 清 氏 NPO 法人 日本動産鑑定 理事長

動産担保融資とは、在庫管理の高度化であるとの印象を強烈に受けた。それは、提供しきった不動産担保等の次に来るものではなく、不動産、有価証券に続く、第三の担保と考えるべきではない。事業の継続、発展を支援する前向きのもので、企業経営を支援する融資手法である。担保提供というよりも、オンライン型の在庫管理システムを含む動産担保の管理透明化であり、また提供された動産は担保提供後も、企業の原材料や機械等として生産活動に利用可能であり、商品も取引先、一般顧客への販売が可能である。そのポイントは、借り手企業と貸し手金融機関の資金の必要性和有効活用であり、両者の信頼関係である。動産担保とは企業が保有する動産を担保に取ることに意義があるのではない。信頼関係とは融資手続、経営管理の効率化、貸し手への誠実な報告業務、借り手と貸し手の関係強化である。

リレバンと動産評価がもたらす企業ファイナンスの新展開

講 師： 多胡 秀人 氏 アビームコンサルティング株式会社 顧問

久保田先生の言われる動産担保融資の仕組みについて、多胡先生は、ABL にあるような動産担保ではなくて、動産評価であると説明された。それは経営の中でどう生かされているかという棚卸資産を中心とする企業経営の質の評価にもつながり、リレバンの目指すところと一致する。金融について、今、行われている緊急保証制度は、一時の止血剤であり、企業が地域金融機関に求めているものは「お金のご用立て」だけでなく、「中小企業の事業そのものの支援」であり、その本当の役割は「地域の経済構造変革の触媒となり得る」金融機関である。資金の融資の前に、担保ではなくて、中小企業の抱える課題、企業の事業内容の話聞き、それを理解した上で、情報提供や提案を行うことが求められており、この借り手事業への踏み込みが真の意味での信頼と顧客を得る要諦である。この意味で「ABL」は一般解ではなく、特殊解、即ち動産担保であり、動産評価にまでは至っていない。

動産担保（評価）というものが、貸し手の融資と借り手の資金活用を通じて、両者の効果的経営に結びつく。久保田先生は動産担保及びその管理面から、多胡先生は金融面からの評価を通じた金融と事業の効率化を述べられた。両先生の講義は、過去最多約 130 名の参加者に金融担保と事業経営の合一という明解で前向きの印象を与えた。

第 33 回勉強会 (平成 21 年 11 月 13 日)

アジア GW 構想のグローバルビジネス!

華僑 4 千万に学ぶ和僑と沖縄コラボ

講師: 大津山 訓男 氏 アットマークベンチャー株式会社 代表取締役

1997 年の設立以来、ニュービジネス協議会で約 140 回の月次フォーラムを継続しておられる大津山先生が、和僑、華僑、印僑に学ぶアジア圏の海外進出や経済活動について、沖縄の可能性と将来について講演をしていただいた。

アジア系の LCC は大注目。特にエアアジアが登場したことで格安旅行が可能になった。エアアジアのハブはクアラルンプール。チケットはだいたい 800~900 バーツ、3000 円程度と激安。ポリシーは、「バス並みの料金で利用できる飛行機」。エアアジアは、クアラルンプールとバンコクを中心に 100 以上の路線を持ち、東南アジアをカバーしている。



LCC 急成長 16M 利用 100 FLIGHT (AIR ASIA)
5% から 25% の国民が LCC 利用 (1 月日本を抜く)

沖縄 3 時間圏内に 30 億人の人口

[AirAsia](#)

[AirAsia Long Haul](#) (FlyAsianXpress の子会社)

[Firefly](#) (Malaysian Airlines の子会社)

[Air Philippines](#)

[Cebu Pacific Air](#)

[Jetstar Asia Airways](#) (カンタス航空の子会社)

[Tiger Airways](#) (シンガポール航空の子会社)

[Valueair](#) (Jetstar Asia Airways の子会社)

[Bangkok Airways](#)



第 34 回勉強会 (平成 21 年 12 月 4 日)

国際認証の現状と今後

ビューローベリタスの場合

認証制度が出来ること・認証制度で出来ること

講師: 武藤 眞美 氏 (むとうまさみ)

ビューローベリタスジャパン・システム認証事業本部営業部エリアマネージャー

1954 年山梨県生まれ、中央大学ラグビー学部 (本当は法学部) 卒業後、日系の損害保険会社を経て 1986 年アメリカンエクスプレスインターナショナル入社。法人カード営業及びカスタマーサービスを経験。この時に知遇を得た一人が、現在の遊び友達でありご近所様でもあり鍼のお得意様でもある平松庚三氏。最近平松氏の群馬・月夜野農場を耕す小作人でもあり実家山梨の農家の血に目覚めつつある可能性が高い。1999 年外資系 ISO コンサルティング会社を経て、2002 年ビューローベリタスの前身である「BVQI JAPAN」(その後現在に社名変更)へ転身。国際標準規格である ISO を含む第三者認証審査に関わる営業、顧客への案内を行う。(講師ご紹介)から

第42回

学生と教職員の交流の場

学内と社会を結ぶ交流の場

琉大21世紀フォーラム



日時

平成22年 1月14日(木)
17:00～18:30

場所

琉球大学研究者交流施設
50周年記念館

話題：「世界金融危機と預金保険—預金保険機構の業務と課題—」

発表者：永田 俊一 (預金保険機構理事長)

日本の預金保険(37才)は、平成金融危機で出動が相継ぐ中、万一の場合の預金者保護と金融機関破綻処理の機能への認識が高まり、今は平時～危機全方位対応の制度・仕組みが出来上がって、金融政策・金融監督・預金保険と金融のセーフティネットの一角となっている。

そして今般の世界金融危機の中で、米(FDIC 75才)・欧はじめ各国預金保険機関の出動が相継いだ。危機の進行から預金者・システムを保護するとともに、相互協力がより必要な共通課題を抱え、進化も求められている。

わが国預金保険機構の窓から外を見、自らをも省みてみたい。

発表者プロフィール



永田 俊一
預金保険機構理事長

昭和19年、新潟県佐渡生まれ。昭和42年、東京大学経済学部卒業後、大蔵省入省、日本銀行政策委員会大蔵省代表委員などを歴任。日本銀行理事、信託協会副会長を経て、平成16年に預金保険機構理事長に就任。

主催：琉球大学生涯学習教育研究センター

問合せ先：琉球大学学術国際部地域連携推進課 TEL：098-895-8019

(事前に参加登録する必要はありません)